

分野全体を取り巻く状況

西東京市では、これまで援農ボランティアの育成、創業支援相談センターの運営、商工会ホームページの作成など、農業・商業・工業の振興に取り組んできました。

しかし、市内産業については農地の減少、商店・事業所数の減少、従業員数の減少などが見られます。依然として、市民の買い物や通勤は、都心部などに流出している傾向も顕著です。

今後、地域経済を維持発展させ、活力あるまちづくりを行うためには、産業の活性化が欠かせません。そのため、市民、事業者、行政などの連携により市内の資源やネットワークを有効に活用し、既存産業の振興と新産業の創出に取り組むことが求められます。

更に、農業振興にあたっては、安全・安心な農産物の生産支援や援農ボランティアの組織化、景観形成や食育といった観点から、農地の多様な活用について検討することも必要です。

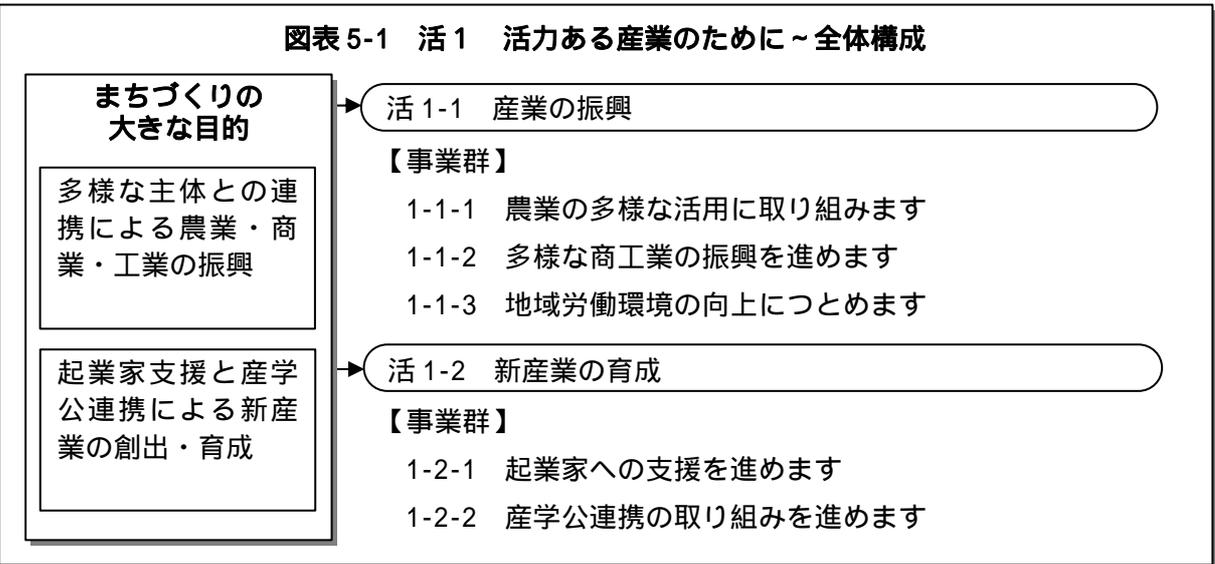
分野全体の目的

市場のニーズに応じて産業構造が変化する中、西東京市においては農業の経営耕地面積の減少、大手工場の移転や規模縮小、また、近隣地域の活性化による購買流出などの動きが見られます。一方、農業は食の新鮮さ、安全性、農地の保全の観点からの期待が高く、地域での流通・販売の促進が求められています。工業では、技術力の高い小規模工場の今後の発展が期待されます。また、商業においては、市の人口密度の高さなど商業環境を取り巻く潜在的可能性は高く、活力のあるまちづくりのために、商業の活性化は欠かせないものです。

地域経済の維持・発展のために、既存産業の新たな展開や、より一層の振興を図ると共に、労働環境の向上を目指します。

更に、これからは時代に対応した新たな産業の開発がしやすい環境をつくり、コミュニティビジネスやベンチャービジネス、SOHOなどの起業家支援や商店街活性化のための創業支援、産・学・公の連携などを推進していく中で、地域の活力の創出を図っていきます。

図表 5-1 活 1 活力ある産業のために～全体構成



施策を取り巻く現状

西東京市では、これまで援農ボランティアの育成、商店街活性化への支援、中小企業への支援、就職相談会の実施など、農業、商業、工業の振興に取り組んできました。

しかし、農家数、商店数、中小企業数の漸減など、地域産業の停滞傾向は依然として続いています。特に、商店街では空き店舗が増加する一方、近隣市を含めた大型ショッピングセンターの建設が数多く見られます。

農業を見ると、全国的な食育や地産地消の動きや、自然環境への市民意識の高まりなどを受けて、そのあり方が見直されています。

一方、商業では、今後も続くと思込まれる人口の増加や、駅前のみちづくりの推進により、商業振興の潜在的な可能性が高まっています。工業では、技術力の高い小規模工場の発展が期待されます。

施策全体の課題

安心・安全な農産物生産支援や援農ボランティアの組織化や体験農園の運営など、地域に密着した農業の振興に取り組むことが必要です。また、食育や景観形成の観点から、農地の多様な活用についての検討が必要不可欠です。

商工業については、駅前における商業振興の可能性などを踏まえて、市民・事業者・教育機関・行政の連携により、地域資源の活用観点から振興策に取り組むことが必要不可欠です。

また、市内の中小企業に対しては、引き続き支援を行うと同時に、市民・事業者・行政の連携により地域雇用を促進することも必要不可欠です。

施策実施へ向けたキーワード

- ・ 農業を活用したまちづくり
- ・ 多様な主体と連携した商工業の振興及び地域雇用の促進

図表 5-2 西東京市の商店数、年間商品販売額推移

平成年度	商店数			従業者数			年間商品販売額(百万円)		
	11	14	17	11	14	17	11	14	17
卸売業	207	206	203	1,256	1,301	1,144	78,224	59,080	57,289
小売業 (飲食店を除く)	1,516	1,396	1,345	9,736	9,316	9,170	152,897	149,932	147,512
総数	1,723	1,602	1,548	10,992	10,617	10,314	231,121	209,012	204,801

資料：商業統計調査報告

用語解説

- ・ **体験農園**：農家の受け入れにより、一般市民が指導を受けながら農業を行える農地を指す。
- ・ **援農ボランティア**：農業に関心を持つ市民が農業を学んで技術を習得し、実際に農家のお手伝いをする事で農家の労働力を支援するボランティア。
- ・ **食育**：「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てる教育のことを指す。
- ・ **地産地消**：地域で生産されたものを地域で消費することを意味する。

活1 - 1 産業の振興の目標

市内の農業・商工業を振興し、地域経済の発展をめざします。

施策の成果を示す代表的な指標と5年後の姿(目標値)

代表的な指標	19年度 実績値	25年度 目標値	方向	指標設定の理由、目標の根拠
農地面積	188ha (H14年度)	190ha		西東京市農業振興基本計画において制定済み
商店の1店当たり 年間販売額	10,086 (万円) (H11年度)	11,000 (万円) 現在調整中		
就職相談会への 参加人数	95人 (H18年度)	150人		

施策展開の主な取り組み～課題解決の方向性～

活1-1-1 農業の多様な活用に取り組みます

- ・ 減農薬・減化学肥料による農業を推進し、安全安心農産物の普及を進めます。市内で生産される農産物などの商品価値を高め、収益性の高い都市型の産業としての魅力ある農業経営となるよう支援します。
- ・ 市民が生産の喜びと農業に対する理解を深められる機会を提供したり、地産地消を促進するなど、多面的に振興を図ります。

活1-1-2 多様な商工業の振興を進めます

- ・ 魅力ある商業や商店街をつくっていくリーダーを養成したり、商店街などの組織力を強化するための広域的な組織づくり、商工業者と生活者のパートナーシップによる商店街やまちづくりを進めています。
- ・ 中小企業者に対しては、自主的な経済活動を促進し、経営の安定を図るための支援をしていきます。
- ・ 商工業の振興を図るため、拠点整備の検討をします。
- ・ 情報産業など大規模な用地を必要としない形態の産業を誘致するための方策を検討していきます。

活1-1-3 地域労働環境の向上につとめます

- ・ 関係機関と連携し市民の就職機会を提供したり、国の中小企業者の退職金共済制度への加入を促進するなど、地域内の事業所やそこで働く人の労働環境改善を支援します。

この施策の事業体系～目標への具体的取り組み～(仮)

事業名	年次	性質	事業概要
魅力ある農業の推進			
援農ボランティアの組織化			
公共施設での農産物直売			
農業を通じた市民との交流の促進			
東大農場と連携をとったまちづくりの検討			
21世紀商業リーダーの育成			
広域型商店街活動の推進			現在調整中
商業者と生活者による商店街・まちづくりの推進			
商店街活性化への支援			
コミュニティビジネス支援の実施			
中小企業事業資金融資あっせん事業の実施			
勤労者福祉センターの運営			
中小企業退職金共済掛金補助事業の実施			
コミュニティ形成の場としての商工業振興の拠点施設の整備及び支援についての検討			
就職相談会の開催			



施策を取り巻く現状

西東京市の商工業を取り巻く環境は厳しさを増しており、商店の年間販売額や商店数、事業所数は減少傾向にあります。特に商店街では後継者不足から空き店舗の増加が顕著に見られます。

こうした状況の中、西東京市では、起業・創業への支援のために西東京創業支援相談センターの運営や、空き店舗を活用したチャレンジショップ事業の実施を行ってきました。また、市内にある武蔵野大学、早稲田大学、東大農場等との連携に向けて、様々な取り組みを進めてきました。

しかし、新産業創出や、産学公連携の取り組みとしては目に見える成果が出ていないという現状もあります。

今後は、地域の新たな活力の創出に向けた効果に留意しつつ、西東京創業支援センターによる起業支援や市内大学との連携などを模索していく必要があります。

施策全体の課題

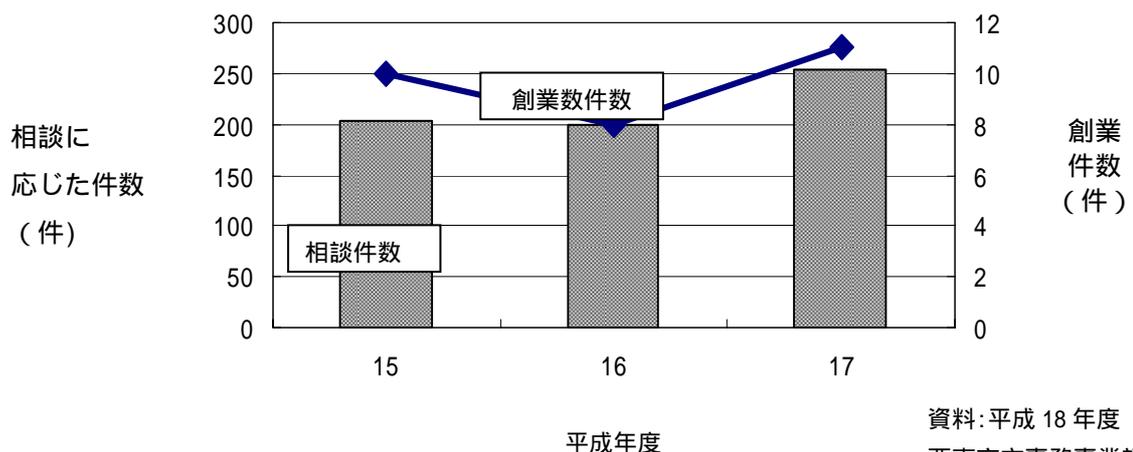
新産業の育成のためには起業家・創業家への支援が不可欠です。西東京創業支援相談センターを中心とした起業・創業しやすい仕組みづくりが必要です。あわせて、空き店舗の有効活用による商店街の活性化も求められています。

また、産学公連携による事業については市内の大学機関を活用しての具体的な事業の実施の拡充に取り組み、地域活性化のつなげる必要があります。

施策実施へ向けたキーワード

- ・ 西東京創業支援相談センターを中心とした起業、創業のための場、機会、情報の提供
- ・ 産学公連携による具体的な事業の実施
- ・ 東大農場を活用したまちづくり

図表 5-3 西東京創業支援センターで各種相談に応じた件数



資料：平成 18 年度
西東京市事務事業評価
報告書

活1 - 2 新産業の育成の目標

起業・創業に対する支援を行い、新たな地域産業の活性化をめざします。

施策の成果を示す代表的な指標と5年後の姿(目標値)

代表的な指標	19年度 実績値	25年度 目標値	方向	指標設定の理由、目標の根拠
起業・創業数	11 (H18 年度)	15	現在調整中	
チャレンジショップ 事業への応募数	2 (H18 年度)	5件		
産学公連携の事業数				

施策展開の主な取り組み～課題解決の方向性～

活1-2-1 起業家への支援を進めます

- ベンチャービジネス・SOHO など、これから起業・創業を行う人に対して、事業内容、資金等の相談やアドバイスを行うと共に、その動きを誘発する助成や空き店舗活用、人材育成支援等を行います。

活1-2-2 産学公連携の取り組みを進めます

- 市内外の大学等の研究機関と事業者及び行政が共同または連携して行う「知的資源」を活用した起業や事業化について、コーディネート及びマッチングを行うほか、新たな展開を模索する異業種間の交流・連携についての調査・研究を進めます。

この施策の事業体系～目標への具体的取り組み～(仮)

事業名	年次	性質	事業概要
創業支援相談センターの運営			現在調整中
チャレンジショップ事業			
産学公連携による事業の実施			

用語解説

- ・西東京創業支援相談センター：起業、創業のための講習会や経営、情報、法律、金融などの専門家による特別相談、公的支援の相談、情報の提供などを行う。
- ・チャレンジショップ事業：市内空き店舗での起業、創業への意欲を持つ人に市が家賃補助を行う。西東京市商店街振興プラン（平成14年度策定）の重点プログラムの1つ。
- ・産学公連携：産業界、大学や研究機関、行政が相互に技術、情報、施設などを出し合って新製品や新技術の開発を行う活動のことを意味する。



分野全体を取り巻く状況

現在、観光のあり方が見直されています。平成18年度に観光立国推進基本法が制定され、観光による地域のにぎわいづくりの重要性が指摘されています。

西東京市では、まちの魅力の創造のために、これまで散歩道や水辺環境の整備に取り組んできましたが、更に自然環境を活かした景観整備を求める市民の意識が高まっています。また、アニメ産業や西東京市出身の有名スポーツ選手などの特色ある資源がありますが、近隣市と比べても、こうした地域資源の活用の余地が大きいと言えます。

更に、東京都による東伏見公園の整備と石神井川の改修などが進められており、市内に不足していた水とみどりの景観として、まちづくりに有効に活かしていくことが求められます。

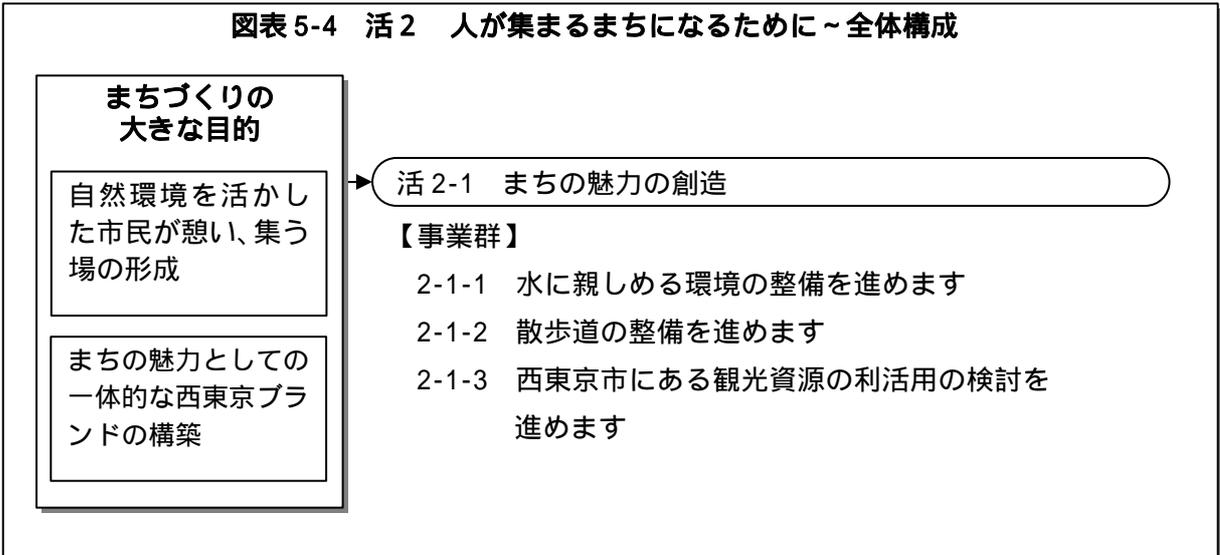
今後は、そうした地域資源に着目し、市民、事業者、行政の連携によって一体的なまちの魅力、「西東京ブランド」を形成し、人が集えるまちづくりを行うことが重要です。

分野全体の目的

まちの活力を維持するためには産業の活性化は元より、人が集まるまちづくりが大切です。そのための魅力づくりとして、市内のみどりや川などの自然を保全、活用しながら、自然空間の憩いの環境づくりが必要となります。

日中や休日に訪れることのできる憩いの場や、水やみどりに親しみ遊べる場など、人が集いやすい環境を整備していきます。また、全市的なまちの魅力の創造として、市内に存在する自然環境を活かした散歩道などを整備し、それらを楽しむための散歩会や散策ルートの設定などの活動づくりを進めるほか、多様な観光資源を見出し活かす方策の検討を行い、人が集うまちを実現します。

図表 5-4 活2 人が集まるまちになるために～全体構成





施策を取り巻く現状

西東京市では、まちの魅力を創造するため、4つの重点プロジェクトを定めて市民の参加の下、その進捗を検証してきました。また、市内に散策ルートを設定し、散策会を実施するなど、周知に努めてきました。

一方、市民意識調査によると、多くの市民が良好な景観の整備と自然環境の維持が重要であると認識しています。合併後の一体的な魅力としての「西東京ブランド」の更なる成熟が必要であるという市民の声もあります。

現在、東京都による東伏見公園の整備と石神井川の改修などが進められており、市内に不足していた水とみどりの景観として、まちづくりに有効に活かしていくことが求められます。

今後は、住宅開発などと自然環境が調和した魅力ある景観づくりに取り組むと共に、アニメ産業や西東京市出身の有名スポーツ選手、更には石神井川周辺の景観創出といった特色ある地域資源を活用し、「西東京ブランド」を構築することが求められます。

施策全体の課題

一体的なまちの魅力としての「西東京ブランド」を構築するためには、市民、事業者、行政が連携することが不可欠です。交通関係の事業者などと連携したにぎわいのあるまちづくりをはじめ、多様な主体間の連携による仕掛けが必要です。

特に、アニメ産業、西東京市出身の有名スポーツ選手、石神井川周辺の景観創出など、西東京市の特色ある地域資源を活用し、魅力的な「西東京ブランド」を構築することが必要です。

更に、にぎわいのあるまちづくりのためには、ホームページやコミュニティラジオといった地域の情報媒体を活用し、まちの魅力を発信することが必要です。

施策実施に向けたキーワード

- ・ 西東京ブランドの構築
- ・ 自然環境を活かした景観形成
- ・ アニメ産業や西東京市出身の有名スポーツ選手を活かしたまちづくり
- ・ 情報発信力の強化



用語解説

- ・ コミュニティラジオ：市町村に開設するラジオ局。地元のニュースを中心に住民参加で放送を作っていく地域密着型のメディア。

活2 - 1 まちの魅力の創造の目標

自然環境を活かした特徴あるまちづくりをすすめ、人が集まるまちとなるための魅力を向上させるとともに、人が集うきっかけづくりや観光資源の研究に取り組みます。

施策の成果を示す代表的な指標と5年後の姿(目標値)

代表的な指標	19年度 実績値	25年度 目標値	方向	指標設定の理由、目標の根拠
西東京市への 観光客数				
地域イベントへの 参加者数			現在調整中	
休日に散歩道を利用 する人の数				

施策展開の主な取り組み～課題解決の方向性～

活2-1-1 水に親しめる環境の整備を進めます

- 市街地を流れる水辺空間を活用し、水とみどりに親しめる憩いの空間にするため、石神井川沿いは、親水広場の整備等を検討し、長期的には川沿いのほぼ全線について親水機能のある快適な空間の再生を図ることを目指します。

活2-1-2 散歩道の整備を進めます

- 市内に点在する公園や寺社、散歩道等をネットワーク化し、散策ルートの設定を行うなど、歩いて楽しめる魅力ある空間づくりを進めます。白子川等のふたかけ河川については、緑道化を図ります。
- 東大農場の市民開放を促進したり、空間を活用したイベントを検討するなど、人が集まる市民の活動を創出します。

活2-1-3 西東京市にある観光資源の利活用の検討を進めます

- 人が集う魅力あるまちを目指して、市内の憩いの場や交通機関、商店街、特産物や文化財等の様々な観光資源の活用など、まちの魅力の創出と人が集まるきっかけづくりを研究し、実現へ向けての方策を検討します。

施策展開の主な取り組み～課題解決の方向性～

事業名	年次	性質	事業概要
東伏見石神井川緑地の整備について東京都へ要請			
石神井川の親水公園化について東京都へ要請			
水辺に親しめる教育環境づくりへの支援			
水辺を守るための運動への支援			
水辺を守るための多様な主体のネットワーク構築への支援			現在調整中
市役所ホームページ・広報誌での散歩道の情報発信			
散策ルートの調査、研究・整備			
西東京ブランド発信プロジェクト			
観光資源と交通資源の連携についての検討			
人にやさしい椅子づくりのまち推進事業			

他自治体での動向

杉並区、練馬区は西武鉄道と協力して「アニメのまちづくり」に取り組んでいる。

練馬区では「ねりたんアニメプロジェクト in 大泉」の開催にあたって、西武鉄道が「銀河鉄道999」の記念乗車券を販売した。

杉並区では西武鉄道が地域活性化事業への協力を正式に発表した。杉並区が「機動戦士ガンダム」のモニュメントを上井草駅に設置するのに合わせて、オリジナルヘッドマーク車輛の運行、発車メロディを同アニメのものに変更した。

出典：西武鉄道株式会社ホームページ

<http://www.seibu-group.co.jp/railways/>

現在検討中

コラム：「知っていますか？西東京市でつくられているアニメ」

西東京市内にはアニメ制作の会社、シンエイ動画があります。「クレヨンしんちゃん」や「ドラえもん」、「あたしんち」などの人気アニメが実は西東京市で作られている。

中でも「あたしんち」は西東京市を舞台にしたアニメである。

出典：シンエイ動画株式会社ホームページ
<http://www.shin-ei-animation.jp/>

現在検討中